

踏まれても踏まれても生き返る

# いたばし雑草通信

NO.5 2024.5.25

編集：発行 木村松夫

090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com

メール発信のみの無料情報紙です。購読希望の方はメールでお申込みください。鮮明画像のPDFでお送りします。

## カタバミの仲間 いっせいに咲き誇る カタバミ科

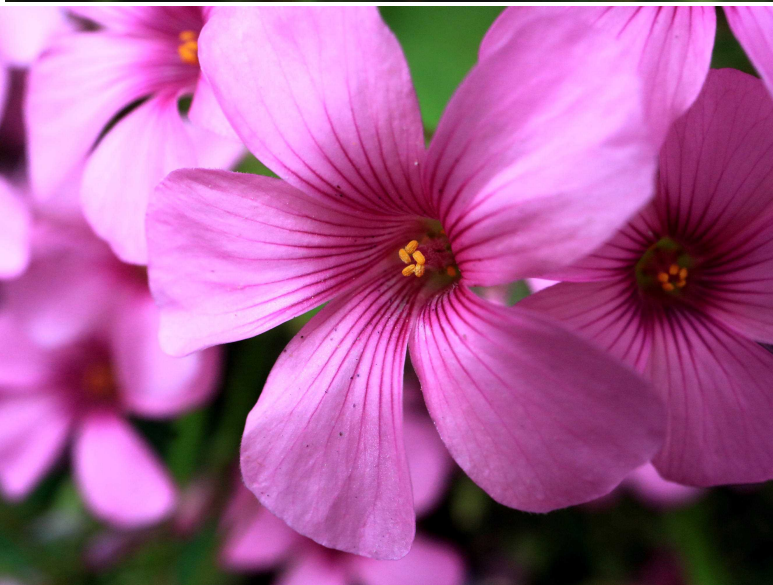
本紙第2号（2024.5.5発行）ではオウタチカタバミを紹介しましたが、5月の中旬を過ぎたら、右の写真上から小さい順に、普通のカタバミ（まだ咲き残り）、ムラサキカタバミ（野生のカタバミ類では大型）、イモカタバミ（中心が濃い赤色）が花盛り。あちこちの道端でカタバミのかたまりが見られます。

野草のカタバミには、このほかに花色は黄色でも葉色が赤ないし赤味があった緑色のアカカタバミがあります。

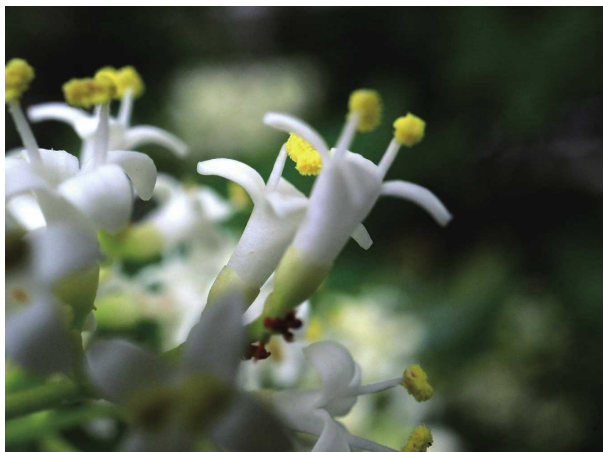
さらに、品種改良された園芸種のカタバミで、花も葉も大型、色は黄花、白花、ピンクなどいろいろ開発されていて、それぞれ商品名が付けられています。いちいち区別している暇はないので、植物観察会では木村は一括してそれらを「オキザリス」（これカタバミの学名。それが商品名になっている商魂！）としています。

さて、右の3つの野草種の花芯を覗いてみると、雄蕊（おしべ）の形は似ています。やっぱり兄弟種なのでした。

雄蕊へのこだわりついでに、下の写真は街路の垣根でよく見られるネズミモチの花。遠目に見ると白い小さな花が密生して、モワモワッとしているだけなのですが、眼を近づけて観れば、ほら、こんなに美しい！



## ネズミモチの花 モクセイ科



## イヌムギの秋と春 イネ科

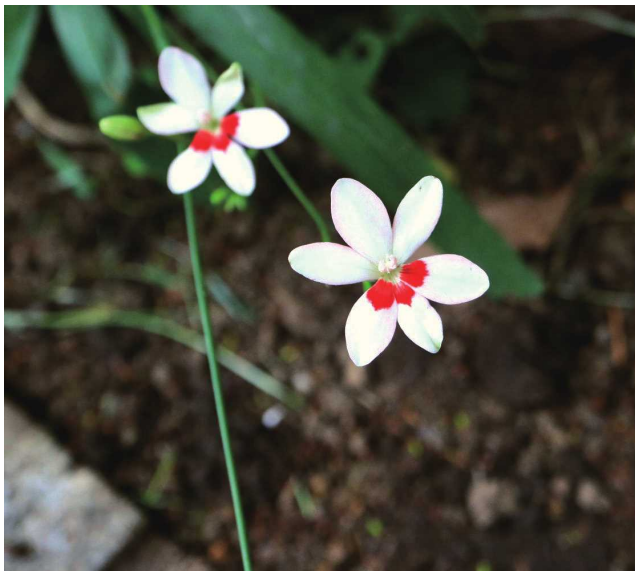


5月の初めには青々と小穂を垂らしていたイヌムギ(5/6 No3)は、月末には早くも実になって秋の風情。かと思うと、その近くでは新しい葉と花茎が伸びてきて、新鮮な小穂を垂らしています。



赤塚公園のモニタリング記録を見ると、イヌムギが冬期を除いて1年中開花するようになったのは2019年ごろからです。当初は気が付かなかったのですが、今では二期作どころか三期作、四期作が常態になっています。

## 道端でよく見られるようになった ヒメヒオウギ アヤメ科



大正期に鑑賞用に輸入されて園芸栽培されていたようなのですが、最近は道端で比較的好く見かけるようになりました。WEBの『アルカス植物図鑑』によれば「暖地ではこぼれダネで自然にふえるほど丈夫」とあります。この花がよく見られるようになったのも、繁殖力の強さに加えて、地球温暖化で東京が亜熱帯化している表れかもしれません。

それにしても、白花と赤花が近くで咲いているのは初めて観ました。珍しい！



イヌカキネガラシに付くモンシロチョウ